

こども広報記者が

伊豆の国ふるさと博覧会を

取材しました！

伊豆の国ふるさと博覧会応援企画として、「こども広報記者」を広報12月号などで募集。1月14日、2人の記者が伊豆の国ふるさと博覧会のプログラムを取材しました。

こども広報記者はこの2人！



中川円花さん
(菰山南小6年)

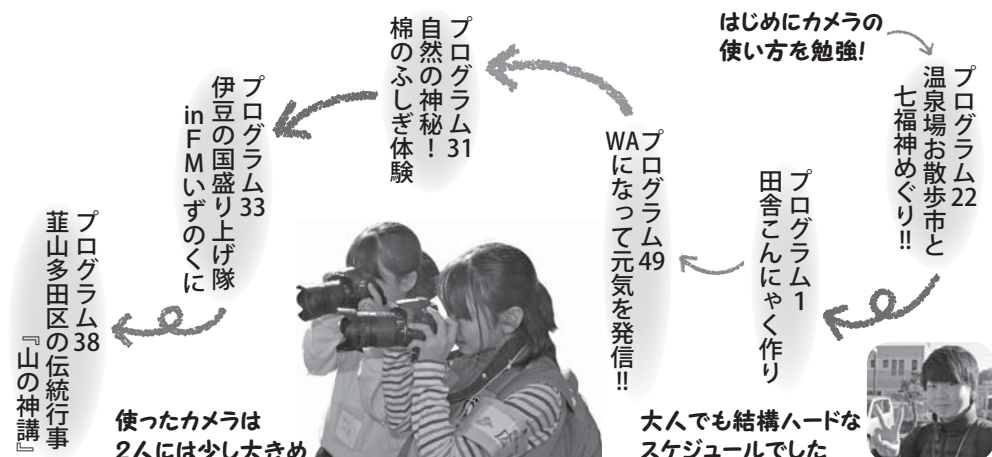


尾村彩音さん
(菰山南小5年)



主催者や参加者の話を聞きながら真剣にメモをとる2人

◆この日のスケジュール◆



菰山の畑で採れた木綿

棉のふしぎ体験が、菰山時代劇場和室で行われました。

このプログラムでは、和綿で糸を作ります。オーガニックコットンから種を取り除き、柔らかくします。その時に、弓やブラシでほぐします。手に水を付け、少しずつ手で糸を回していきます。また、糸車で糸を作ると早く、均一な長さで糸をつむぐことができます。

スタッフの方は、「昔は輸出するぐらい和綿があったのに、今は輸入しなければなりません。和綿は丈夫で熱に強く、肌触りがよいので、『伊豆の国木綿』をつくることが夢です」と話してくれました。実際に体験してみた方は、「触ってみて、触った時の感触が柔らかくて気持ちよかったです。」「始めは上手に糸をつむげなかったけれど、コツをつかむとできるようになって楽しかった。」「ふわふわの綿が一瞬で糸になつていくところが感



糸のつむぎ方の説明



担当：尾村さん



つむいだ糸と棉と種

◆取材だけでなく、体験もしました◆

棉から種を取る



二杯盛りに挑戦！ (ちゃんと完食しました)



こんにやくを手で丸める



FM いずのくにに出演！ (翌々週にも出演したそうです)



ご協力いただいた
パートナー・
参加者の皆さん
ありがとうございました

こんにゃくこんにゃく

食べたいな！



担当：中川さん

こんにゃく作りは1月14日に小坂のみかん農園で行われ、10名ほどが参加しました。

こんにゃくは、こんにゃく玉、ソーダ、水でできています。こんにゃく玉は、畑で三年間寝かせたものを使っているそうです。作り途中のこんにゃくは、直接手で触ると手がかぶれてしまいます。すべて材料が混ざった状態のものが冷めてくると、だんだん固くなります。色は、初め白かったものが、こんにゃくつばい黒い色に近づいていきました。



こんにゃくの材料を混ぜる様子



これをゆでて冷やせばこんにゃくの完成です。

こんにゃく作りを

体験した人たちの声

・とても興味深かったです。伊豆の国市に、このこんにゃく作りが広がるといいです。
・作ったことはあったけど、改めて教えてもらったことがさないでつくることができたので、よかったです。

取材した感想

お土産にももらったこんにゃく、みかん大福おいしかったです！
今度は、私も作ってみたいと思いました。